

日本社会情報学会 (JSIS) ニュース

第39号 2010.8.4

- I 2010年度第15回研究大会スケジュールと参加費等のお知らせ
- II 自由報告・論題詳細プログラム
- III 大会のトピックス
- IV 研究委員会から
- V 事務局から (お願い・ご連絡)
- VI 第58回日本社会情報学会 (JSIS) 理事会議事録

I 2010年度第15回研究大会スケジュールと参加費等のお知らせ

2010年日本社会情報学会 (JASI&JSIS) 合同研究大会 プログラム

大会テーマ: 「グローカリゼーションの社会情報学: 長崎・アジアからの視点」

9月3日 (金) [会場: 長崎歴史文化博物館 講座室 http://www.nmhc.jp/]	
17:30-19:00	(プレカンファレンスI) アジア太平洋地域の社会情報学
19:15-20:45	(プレカンファレンスII) 社会情報学の国際潮流

9月4日 (土) [会場: 長崎県立大学シーボルト校]								
10:00-11:30	WS	自由報告						特別講演
メディア(1)のみ 10:00-12:00	Academic Pre sentation	インター ネット(1)	情報社会 論(1)	メディア(1)	コミュニ ティ論	産業論(1)	企業・産 業・経済 情報(1)	新上五島 町EVI TS
	W103	W101	W102	W317	W316	W315	W314	W301
12:00-13:45	JASI 12:15-13:15 理事会・評議員会 学生会館・学生自習室			JSIS 12:00-13:45 理事会、総会 W103				
14:00-15:00	基調講演「明治期の長崎の情報化と国際関係」 Brian Burke-Gaffney 長崎総合科学大学環境・建築学部長 本部棟・大講義室							
15:30-17:30	シンポジウム「グローカリゼーションの社会情報学: 長崎・アジアからの視点」 モデレーター: 香取淳子 (長崎県立大学シーボルト校) 報告者: 丸川知雄 (東京大学)、遠藤薫 (学習院大学)、黄國光 (創価大) ほか (敬称略) 本部棟・大講義室							
17:30-17:50	JASI・JSIS表彰式 大講義室							
18:00-20:00	懇親会 学生会館・大学生協食堂							

9月5日(日) [会場:長崎県立大学シーボルト校]							
10:00-12:00	WS		自由報告				
	日韓電子政府・自治体比較	先端技術を組み込んだ社会	情報社会論(2)	メディア(2)	e-支援システム(1)	情報化と情報システム(1)	企業・産業・経済情報(2)
	M103	M203	W101	W102	W103	M201	M206
13:00-15:00	WS		自由報告				
	地域医療の情報化	青少年のインターネット利用問題	情報の管理	ネットと社会不安	電子政府/電子自治体	地域情報(1)	
	M103	M203	W101	W102	W103	M201	
15:15-17:15	自由論題						
	メディア(3)	情報行動の変容	地域情報(2)	e-支援システム(2)	情報の共有	産業論(2)	デジタルコンテンツ
	M104	M203	W101	W102	W103	M201	M206

9月6日(月) [会場:長崎県立大学シーボルト校]	
10:00-12:00	WS「離島と山間地域の情報化」 M103
午後	視察(軍艦島)

※自由論題の報告者・テーマ等については、大会ウェブサイト (<http://sun.ac.jp/siebold/im/2010jasi-jsis/>) に掲載されるプログラムでご確認下さい。
本プログラムに記載された教室番号は便宜的なものです。当日の具体的な場所についても、大会ウェブサイトでご確認下さい。

【2010年度大会参加費のお知らせ】

会員種別	大会参加費		懇親会	プレカンファレンス
	事前※	当日		
一般会員	5,000円	6,000円	5,000円	1,000円
学生会員	2,000円	2,500円	3,000円	1,000円
非会員一般	7,000円	7,000円	5,000円	1,000円
非会員学生	2,500円	2,500円	3,000円	1,000円
学部学生※※	無料	無料	3,000円	1,000円

※ 事前受付期限は、8月23日(月)です。下記振替口座まで、同封(近日中に郵送)の振込用紙に、内容を明記してお振り込み下さい(会費振替口座とは違いますので、ご注意ください)。

※※ 研究発表論文集希望の学部学生には、2,500円で販売します。

【振替口座】日本社会情報学会(JSIS)振替口座(ゆうちょ振替口座)

- ・口座名 日本社会情報学会全国大会事務局
- ・口座番号 00160-2-702417

【口座宛先】〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-38-4 産業プラザB1

NPO法人iコミュニティ内 日本社会情報学会(JSIS)

会費・和雑誌受領担当 和泉恵子

II 自由報告・論題詳細プログラム

第一日目:9/4(土):自由報告部会 | 10:00-11:30(メディア(1)のみ12:00まで)

○=一般/◎=大学院生

1-1 インターネット(1)

- ブログに関する日本・フィンランド大学生利用実態・意識調査比較研究
 - 田中雅子(東京電機大学) 後藤誠裕(東京電機大学) Ville Vesterinen(ロバニエミ応用科学大学)
- ◎ “Webの進化が地域サイトにもたらすもの - 名古屋市東区地域サイト「ひがしネット」の事例から -”
 - ◎近藤真由(名古屋大学大学院 情報科学研究科) 後藤昌人(金城学院大学 現代文化学部) 安田孝美(名古屋大学大学院 情報科学研究科)
- ◎ インターネット株式掲示板ファクターモデルに対する新たなファクターの検討
 - ◎清水直樹(電気通信大学) 諏訪博彦(電気通信大学) 梅原英一(野村総合研究所) 太田敏澄(電気通信大学)

1-2 情報社会論(1)

- Medical Social Informatics Framework for Preventive and Curative Strategy on Clinical Epidemic Based Problems in Public Health
 - Agung Budi Sutiono(電気通信大学・ハサンサディキン病院) Andri Qiantori(電気通信大学・PT Telekomunikasi Indonesia) 諏訪博彦(電気通信大学) 太田敏澄(電気通信大学)
- ◎ 若年女性の投票行動 - 情報行動・社会意識との関連から -
 - ◎寺地 幹人(東京大学大学院) 柴田 邦臣(大妻女子大学)
- ◎ 医療情報化についての考察 - 日台における電子カルテシステムに関する政策比較 -
 - ◎邱蘭婷(東京大学大学院学際情報学府) 須藤修(東京大学大学院情報学環)

1-3 メディア(1)

- 写真鑑賞場面における相互行為分析 - 地域の歴史写真集を介した夫婦のコミュニケーション -
 - 中塚朋子(奈良女子大学大学院) 櫻井裕子(奈良女子大学大学院) 山内美月(奈良女子大学大学院) 榎田美雄(徳島大学)
- 紙芝居にみられる観客のコミュニケーション行動
 - 柳田多聞(長崎県立大学)
- ◎ どぶいた選挙のマルチモダリティ分析
 - ◎堀口剛(東京大学大学院学際情報学府)
- 情報の色覚バリアフリー向上のための3D立体映像の活用
 - 中村広幸(芝浦工業大学工学部) 河村健二(SUISHAYA)

1-4 コミュニティ論

- ◎ オタクのコミュニティ形成・維持機能について～オタクコミュニティの機能と役割の研究～
 - ◎永井睦美(電気通信大学) 福田豊(電気通信大学)
- 大学による映像番組の制作とケーブルテレビでの放送を通じた地域貢献に関する研究
 - 大杉卓三(九州大学システムLSI研究センター)
- 郊外住宅地の社会階層と情報行動 - 福生市の場合 -
 - 天野徹(明星大学)

1-5 産業論(1)

- ◎Determinants of behavioral intention to use 3G mobile TV service
 - ◎Andri Qiantori(電気通信大学・PT Telekomunikasi Indonesia) Agung Budi Sutiono(電気通信大学) 諏

訪博彦（電気通信大学）太田敏澄（電気通信大学）

◎ 韓国における日本映画の消費：大衆文化の受容に関わる社会的要因

◎趙文珠(群馬大学)

◎ネットワーク高度化によるモバイル産業構造変化分析—韓国スマートフォン・プラットフォーム戦略を中心に—

◎趙章恩（東京大学）須藤修（東京大学）

1-6 企業・産業・経済情報(1)

◎ 店頭アクセスデータを用いた顧客の商品選択過程に関する研究

◎富澤伸幸 小川裕樹 諏訪博彦 太田敏澄（電気通信大学）

◎ オープンソース・ソフトウェアで実現する知的生産モデルの展開— 業務系オープンソース・ソフトウェアの導入事例の検証 —

◎赤穂満（電気通信大学大学院情報システム学研究科）福田豊（電気通信大学大学院情報システム学研究科）

◎ ロコミマーケティングガイドラインの実効性に関する研究

◎吉見憲二（早稲田大学）

第二日目：9/5（日）：自由報告部会 II 10:00-12:00

11-1 情報社会論(2)

◎“インターネット環境における社会的浸透”

◎潘偉春(群馬大学社会情報学研究科)柿本敏克(群馬大学社会情報学部)

◎ Digital Inequality in East and South-East Asia: The Lagging Youth of Japan

◎Kamila KOLPASHNIKOVA（電気通信大学）Tuyara EDISEEVA（The Institute of Regional Economics RUSSIA）

○ 社会情報と社会現象 2009年ウクライナ大統領選挙騒動

○林俊郎(目白大学社会学部)田中泰恵(目白大学社会学部)

○ デジタルデバイド解消への基礎的研究

○村井俊雄（リコーテクノシステムズ（株））関口義一（創価大学工学部情報システム工学科）

11-2 メディア(2)

○「インターネット上の通信の自由」の「放送の自由」への接近

○海野 敦史(長崎大学経済学部)

○ 表現規制とヴァーチャリティ：「描かれた児童虐待」をめぐって

○原田伸一郎(同志社大学法学部)

◎ 技術的手段による著作物の保護と表現の自由

◎成原慧(東京大学大学院学際情報学府博士課程)

◎ 台湾における通信・放送の融合に向けた規制改革の現状と課題

◎王慧萍(東京大学大学院学際情報学府)

11-3 e-支援システム(1)

◎ A Visualization Web System of Astronomy News Based on Time and Space Mechanism

◎Yulin CHEN(Nagoya University Graduate School of Information Science Nagoya Japan)、Katsuhiro

MOURI(Nagoya Science Museum Nagoya Japan)、TakamiYASUDA(Nagoya University Graduate School of Information Science Nagoya Japan)

- On-Line & Off-Line 学習によるリテンション（想起・記憶力）の改善効果—観光英語教育におけるブレン
ド学習教材の開発—
 - 山内ひさ子（長崎県立大学シーボルト校）小田まり子（久留米工業大学）河又貴洋（長崎県立大学シーボ
ルト校）
- 中高齢者向けインターネット支援ソフトウェア「e-なもくん2.0」のWeb配信と利用状況の報告
 - 復本寅之介（至学館大学 非常勤講師）横井茂樹（名古屋大学大学院情報科学研究科）
- 電子的意思決定の収斂プロセスのための匿名コミュニケーション支援の枠組み
 - 岩井淳 佐渡一広 富山慶典（群馬大学社会情報学部）

11-4 情報化と情報システム(1)

- ◎ 安全情報共有を目的とした情報共有型GISの設計と構築
 - ◎柳澤剣（電気通信大学大学院情報システム研究科博士前期課程）山本佳世子（電気通信大学大学院情報シ
ステム研究科）
- ◎ 児童見守りシステムの評価分析—公立小学校のアンケート調査から—
 - ◎石川久美子（兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科）辻正次（兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科）
- 長崎県離島地域における情報化の現状と課題
 - 横山正人（長崎総合科学大学）
- ◎ 地域伝統芸能の市民参加型アーカイブ活動におけるソーシャルメディア活用の効果
 - ◎吉田千穂（名古屋大学情報科学研究科）横井茂樹（名古屋大学情報科学研究科）

11-5 企業・産業・経済情報(2)

- トランザクションベースの企業付加価値構造の計測と国民経済活動の接合について
 - 榊俊吾（東京工科大学メディア学部）
- ◎ 景況感の推移における地域・企業規模・業種の差異に関する探索的解析
 - ◎那須田悠貴（静岡大学大学院情報学研究科）山田文康（静岡大学大学院情報学研究科）
- ◎ 情報セキュリティ投資を促進するインセンティブの検討
 - ◎磯谷洋平（情報セキュリティ大学院大学）廣松毅 高木知陽 伊東俊之 川又祥正
- 高等教育機関における専門・技術者就職の変遷に関する研究
 - 岸川善紀（宇部高専）嶋崎真仁（秋田県立大学）

第二日目：9/5（日）：自由報告部会 III 13:00-15:00

III-1 情報の管理

- テロ対策ドラマにみる情報分析活動
 - 佐藤直（情報セキュリティ大学院大学）谷本重和（情報セキュリティ大学院大学）
- ◎ 社会ネットワーク理論に基づくITプロジェクトの失敗要因の分析
 - ◎小西憲治（東京工業大学大学院）寺野隆雄（東京工業大学大学院）
- アンケートにおける「不良回答」の回答特性と分析結果に与える影響に関する研究

- 山田文康(静岡大学情報学部情報社会学科)早川敬一(株式会社 計画研究所)高嶺一男(株式会社 計画研究所)
- e-Science の確立に向けて：地球環境問題への新たなデータセントリックアプローチ
 - 須藤 修(東京大学)後藤玲子 木下裕美子

III-2 ネットと社会不安

- スマートグリッドが与える社会システムへの影響についての考察
 - 乾昌弘(株式会社オーグス総研) 宗平順己
- インターネット利用における「不安」の国際比較-その1-
 - 関谷直也(東洋大学社会学部)橋元良明(東京大学大学院情報学環)小笠原盛浩(東京大学大学院情報学環)、中村功(東洋大学社会学部)高橋克己(NTT 情報流通プラットフォーム研究所)
- インターネット利用における「不安」の国際比較-その2-
 - 山本太郎(NTT 情報流通プラットフォーム研究所)千葉直子(NTT 情報流通プラットフォーム研究所)間形文彦(NTT 情報流通プラットフォーム研究所)高橋克己(NTT 情報流通プラットフォーム研究所)関谷直也(東洋大学社会学部)
- ◎ オンラインゲーム中毒脱出における解決方向の考察
 - ◎福田豊(電気通信大学 電気通信学研究科教授)張豊永(電気通信大学電気通信学研究科)

III-3 電子政府/電子自治体

- 地方自治体の情報システムのコア・コンピタンスの構築手法
 - 吉田博一(大阪府・摂南大学)
- 地方自治体におけるオープンソース導入政策の効果の検証
 - 野田哲夫(島根大学)
- 諸外国を参考とした番号制度モデル比較論と社会情報学の役割
 - 榎並利博(富士通総研)
- 電子自治体における成熟度モデルの構築と適用～ アンケート調査を中心とした成熟度に関する分析 ～
 - 吉田健一郎(麗澤大学)島田達巳(情報セキュリティ大学院大学)

III-4 地域情報(1)

- ◎ 空間的再現性に着目した観光ルートモデルに関する研究
 - ◎川井博之(電気通信大学大学院情報システム学研究科)山本佳世子(電気通信大学大学院情報システム学研究科)
- ◎ 産学官連携による持続可能な地域ポータルサイトの運営に向けた取り組み
 - ◎林康弘(慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科)小野晴子(千歳科学技術大学総合光科学研究科)清木康(慶應義塾大学 環境情報学部)小松川浩(千歳科学技術大学 総合光科学部)
- ◎ 議会基本条例に見る地方議会の広報活動
 - ◎本田正美(東京大学大学院)
- 市民活動情報の共有のための Web ベースマップシステムの検討
 - 服部哲(神奈川工科大学)鈴木浩(神奈川工科大学)佐藤尚(神奈川工科大学)速水治夫(神奈川工科大学)

第二日目：9/5(日)：自由報告部会 IV 15:15-17:15

IV-1 メディア(3)

- ◎ CMC が文章と口語の表現力に与える影響の分析
 - ◎柴田雅雄(創価大) 幸田英樹 大木慎 坂部創一
- ◎ インターパーソナル・コミュニケーションを通じた潜在的公共圏の形成と維持の研究 - 韓国のソーシャルメディア・カフェ「アゴラ」の事例から -
 - ◎車愛順(京都大学 人間・環境学研究科)高橋 顕也(京都大学 人間・環境学研究科)
- ◎ 情報化社会がうつ傾向に及ぼす影響に関する研究
 - ◎幸田英樹(創価大) 大木慎 柴田雅雄 坂部創一
- ◎ 仮想対人ストレスに関する事例研究
 - ◎大木慎(創価大) 柴田雅雄 幸田英樹 坂部創一

IV-2 情報行動の変容

- インターネット利用行動に関する生態学的決定論の計量分析的検討:
 - 階層線形モデルを用いた全国調査データの分析
 - 北村智(東京大学大学院情報学環)
- ◎ 研究グループにおける文献を基にした知識共有指標の提案
 - ◎山本悠介(電気通信大学 大学院情報システム学研究科) 関良明(NTT 情報流通プラットフォーム研究所)、 諏訪博彦(電気通信大学 大学院情報システム学研究科)
- ◎Twitterを利用したアテンション・エコノミーの可視化
 - ◎岸本善斗(茨城大学工学部情報工学科)河野義広(茨城大学工学部情報工学科)米倉達広(茨城大学工学部情報工学科)
- 信号交差点の横断歩行者群特性に関する実証分析
 - 会森直人(株式会社 東急ストア)

IV-3 地域情報(2)

- ◎ 地域情報化による女性支援ー茨城県北地域を事例にー
 - ◎滝沢惟(茨城大学工学部情報工学科)伊藤慎吾(茨城大学大学院理工学研究科)大部由香(茨城大学産学官連携イノベーション創成機構)中島美那子(茨城キリスト教大学)米倉達広(茨城大学工学部情報工学科)
- ◎ 市民のブログが社会貢献に発展する可能性についてー博物館の事例をもとにー
 - ◎本間浩一(慶應義塾大学大学院) 西村秀和
- 地域 SNS のアクセスログ分析を活用したコミュニティ構造の研究可能性
 - 水野義之(京都女子大学)藤田忍(大阪市立大学大学院)西村一郎(平安女学院大学)吉村輝彦(日本福祉大学大学院)
- ◎ 地域 SNS における運営形態がユーザーに与える影響に着目した実証分析
 - ◎中野邦彦(東京大学大学院)

IV-4 e-支援システム(2)

- ◎ 電子書籍検索のための ZigZag インタフェース
 - ◎ 後藤達弥(電気通信大学 大学院情報システム学研究科) 藤村考 (NTT サイバーソリューション研究所)
- ネットワーク表現を用いた社会問題の共同分析手法
 - 原田裕明((株)富士通研究所)渡邊俊一((株)富士通研究所)中村亜紀((株)富士通研究所)渡辺理((株)富士通研究所)鶴飼孝典((株)富士通研究所)

- ◎ Q & A コンテンツを用いたクエリ推薦手法の検討
 - ◎寺澤悠治 小川祐樹 諏訪博彦 太田敏澄 (電気通信大学)
- 入力テキストに応じた関連情報提示機能を備えた文章作成アプリケーション
 - 定國伸吾(大同大学情報学部) 茂登山清文(名古屋大学大学院情報科学研究科)

IV-5 情報の共有

- ◎ 学術情報のクロスメディア的社會共有環境構築の可能性
 - ◎福西敏宏(群馬大学大学院社会情報学研究科)
- 情報の表現と所有
 - 井上寛雄(至学館大学) 曾我千亜紀(名古屋芸術大学) 山田庸介(名古屋大学) 米山優(名古屋大学)
- 情報検索から情報創造へ ---- 知の転換
 - 曾我千亜紀(愛知県立芸術大学非常勤講師) 井上寛雄(中京女子大学非常勤講師) 山田庸介(名古屋大学情報科学研究科) 米山優(名古屋大学情報科学研究科)
- ◎ ホフマイヤー生命記号論とカッシーラー文化記号論との対比が示す情報解釈の多様性
 - ◎石川真也(名古屋大学情報科学研究科)

IV-6 産業論(2)

- ◎ 情報のマクロ経済学への試論
 - ◎村館靖之(東京大学大学院)
- System competency of SMEs in Japan from the viewpoint of Information Technology (IT) and Knowledge-Intensive Services (KIS)
 - Yumiko KINOSHITA (東京大学大学院情報学環)
- 中国・天津エコシティ(中新天津生態城)における新たな産業クラスター戦略の展開
 - 税所哲郎(群馬大学)
- 広告と企業価値の関係に関する時系列分析
 - 田中秀幸(東京大学) 榎原理恵 佐藤訓 長野晋也 井出智明 馬渡一浩

IV-7 デジタルコンテンツ

- ◎ A Web2.0 based Museum for Facilitating Users' Understanding Background Historical Knowledge
 - ◎Binyue CUI(Nagoya University Graduate School of Information Science Nagoya Japan)、Shigeki YOKOI(Nagoya University Graduate School of Information Science Nagoya Japan)
- ◎ 音楽産業における原盤制作主体の量的変化に関する分析
 - ◎加藤綾子(東京大学大学院 学際情報学府 博士課程)
- 思い出をベースにしたバーチャルミュージアムの提案と開発
 - 岩崎公弥子(金城学院大学現代文化学部) 後藤昌人(金城学院大学現代文化学部) 遠藤守(中京大学情報理工学部) 毛利勝廣(名古屋科学館) 安田孝美(名古屋大学大学院情報科学研究科)
- ◎ 観光コンテンツ開発における拡張現実 (AR) 技術活用に関する検討
 - ◎張慶在(北海道大学・国際広報メディア・観光学院)

Ⅲ 大会のトピックス

Ⅲ-1 「長崎大会・プレカンファレンス 2010」のご案内

国際研究をめざす若手と、経験を伝えたい有職者がともに議論できるような、新しいセッションと懇親の場を、学会前日に「プレカンファレンス」として実施します。会場は、長崎市内の長崎歴史文化博物館。アジアの交差点としての長崎を紹介する、長崎奉行所・龍馬伝館でも有名なミュージアムでの、新しい企画です。4日からの大会参加のために前泊される方も多いと思います。ぜひみなさま、ご参加ください。

日時：2010年9月3日（金） 17:30～20:45

場所：長崎歴史文化博物館 講座室 <http://www.rmhc.jp/>

※ 学会参加・振込用紙にて、事前にお申し込みください。

（振込用紙にチェック欄がありますので、記入してください。）

※ 実費程度で、飲み物（お酒含む）、お菓子を用意し、つまみながら議論いたします。

※ 参加料はかかりませんが、当日の資料・軽食代として1,000円をお振込ください。

※ 全国からいらっしゃる先生方の、地元のお酒・飲み物・おつまみ・お菓子の持ち込み歓迎です。名産自慢大歓迎！ 夏期ですので生ものを避け、気をつけてご持参ください。

9月3日（金）	（ぜひ事前に、長崎歴史文化博物館・龍馬伝館をお楽しみください。）
17:30～ 19:00	プレカンファレンスⅠ 「アジア太平洋地域の社会情報学—若手研究者の視点から」 司会：正村俊之（東北大学大学院教授） 1. 平田知久 京都大学大学院文学研究科 グローバルCOE研究員 テーマ：ネットカフェ&アジア 2. 趙 章恩 東京大学大学院学際情報学府博士課程 テーマ：ネット社会、モバイル&韓国 3. Pongsapitaksanti Piya 長崎県立大学国際情報学部 講師 テーマ：広告国際比較&タイ 4. 柴田邦臣 大妻女子大学社会情報学部 准教授 テーマ：ネット、デジタルディバイド&香港
	休憩（簡単な飲食を用意します。セッション中につまんでいただけます。）
19:15～ 20:45	プレカンファレンスⅡ 「社会情報学の国際潮流：若手研究者の国際会議参加支援のために」 司会：大國充彦（札幌学院大教授） 遠藤 薫 学習院大学 教授 テーマ(文系)：社会学・社会情報学分野の国際潮流 毛利嘉孝 東京藝術大学・准教授 テーマ(文系)：文化研究・思想とメディアの国際潮流 河又貴洋 長崎県立大学 准教授 テーマ(文系)：経済学分野の国際潮流 森田 均 長崎県立大学 教授 テーマ(理系)：認知科学分野の国際潮流 横井茂樹 名古屋大学大学院 教授 テーマ(理系・文理融合)：電子社会系・情報分野の国際潮流

お問い合わせ 長崎大会 合同企画委員会 若手支援担当
JSIS：柴田邦臣 k.shibata@otsuma.ac.jp

Ⅲ-2 ワークショップ・シンポジウムのお知らせ

Ⅲ-2-1 若手ワークショップ

Young Researcher's Academic Presentation Session

日時：2010年9月4日（土） 10:00～11:30

場所：長崎県立大学シーボルト校（合同大会内）

近年、社会情報学の分野においても、国際学会で研究業績を発表し、国際的な研究動向を知ると同時に自らの研究の国際的な位置づけを把握することは、若手研究者にとって必須の条件となりつつあります。こうした状況に対応するため、本セッションは国際学会と同様の英語による発表・質疑応答、経験者からのアドバイスを通じて、国際学会発表を行う際のノウハウを共有し、若手研究者の国際的な研究活動を後押しいたします。

司会：桜井成一朗 明治学院大学 教授

報告者：佐藤仁美 神奈川工科大学 大学院博士課程

松本早野香 明治大学 研究員

コメンテータ：安田孝美 名古屋大学 教授

後藤昌人 金城学院大学 准教授

外国人研究者：Pongsapitaksanti Piya 長崎県立大学 講師

お問い合わせ 長崎大会 合同企画委員会 若手支援担当

JSIS：吉田寛 yoshida@inf.shizuoka.ac.jp

※ 詳細は、<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsis/bjk/nagasaki/index.html> をご覧ください。

Ⅲ-2-2 JSIS 研究委員会・情報通信学会情報社会研究会共催ワークショップ 「先端技術を組み込んだ社会—3D・モバイル・マッシュアップ—」

日時：2010年9月5日（日） 10:00～12:00、13:00～15:00

場所：長崎県立大学シーボルト校（合同大会内）

情報技術の進化のスピードは、昔も今も、留まることを知らない。ピッチの速さに慣らされて驚きこそ薄れているが、それでも「こんなことができるようになったのか」と感じることも、一度や二度ではないだろう。一方で、いつまでもある種の“違和感”が残り続けてはいないだろうか。それは、「ここまでできる技術」を、「こんな（程度）のことにしか使えないのか」という“違和感”である。

おそらく技術がそのまま社会を変革することはない。社会の側はあいかわらず、当然のように何も変わらない。それでも、もう少し社会を変えたり、改善したり、具体的な成果に結びついても、よいような気はしないだろうか。

ITによって生まれ、期待された多くの「先端技術」は、これまでその社会的影響を十分吟味する間もないまま開発され受容されてきた。技術の進歩が一人歩きし、社会の進歩がそれに追いつけない状況にある。とくに近年の情報技術の発達にはめざましいものがある。そこで問われているのは、きわめて社会情報学的なテーマである。つまり技術と社会との関係を問うことであり、社会は最先端の情報技術をどのように受け入れる(べきな)のか、そのような技術を組み込んだ社会とはどのような社会であるのかを検討することである。

本ワークショップで取り上げたテクノロジーは、いずれも私たちのメディア聴取の仕方を、地域社会を、生活様式を変えつつあるもの、ないしはその組み合わせである。その影響は、ユーザーの思考様式や生活様式にまで及ぶかもしれない。結論は、技術と社会との連立方程式の中にあるだろう。それぞれのテクノロジーの第一人者をお招きし、その導入例や現状を紹介していただきつつ、コメンテータとともに、社会との関係を問い直すような議論をしてみたい。

本ワークショップでは、特別に3D立体映像のデモンストレーションもおこなわれる。そのリアル感も、多くの方にぜひ体験していただきたいと思う。

司会 正村俊之（東北大学大学院・JSIS研究委員長）

報告者（問題提起者）

- ・中村広幸（芝浦工業大学・情報社会研究会主査）：3D立体映像の観点から
 - ・河井孝仁（東海大学・JSIS）：モバイルの観点から
 - ・服部哲（神奈川工科大学）・柴田邦臣（大妻女子大学）：福祉・ネットのマッシュアップの観点から
- コメンテータ 高橋 徹（札幌学院大学・JSIS）
井村 保（中部学院大学・情報社会研究会副査）

Ⅲ-3 シンポジウム：「グローカリゼーションと社会情報学～長崎・アジアの視点から」

日時：2010年9月4日（土） 15:30～17:30

場所：長崎県立大学シーボルト校（合同大会内）

●企画趣旨

河又 貴洋（長崎県立大学シーボルト校）

リーマンショック後の経済危機にも逸早い回復をみせるアジア経済。その原動力ともいえるアジアの世界の工場地帯としてのプレゼンスとともに、その成長によって牽引された旺盛な消費社会が、まさに世界経済の多極化を推し進めている。他方、日本は国際金融恐慌の直接的な影響が比較的限定的な範囲で収まったにも拘わらず、輸出産業への間接的な効果を大きく受け、回復の兆しがみえた国内経済に更なる迷走を余儀なくされた。

一方で、情報通信技術（ICT）の進展は、グローバル化の波とともに急速に展開し、新たなビジネスシーンを開拓してきている。その象徴とも言うべき検索エンジンを中軸とするインターネット・ビジネスはクラウド化（雲の中へ）し、データ処理の分散化から再中央集権化へと移行し始めている。また、iPhoneはモバイル通信の新たなモデルを提示しながら、スマートフォンの普及を先導している。さらに、iPodで急展開を見せた音楽のネット配信ビジネスは音楽業界のビジネスモデルを根本から変革し音楽CD販売を凌ぎ始めているとともに、アマゾンの「Kindle」（キンドル）やiPadで話題を呼ぶ電子書籍化の動きが著作者及び出版業界を巻き込んで活発化してきている。

そして、これら技術の高度化に伴うアプリケーションの多様化を、今一度、グローバルな視野から捉えればどのように見えるであろうか。情報通信技術のビジネス展開において、キラー技術を米国企業に押さえられながら、すり合わせ統合型技術に優位性を誇ってきた日本企業は「ガラパゴス化」した国内市場に囚われて、海外市場に打って出る戦略に二の足を踏んでいるかに思われる。その合間にも、製造業は韓国や中国の企業に追い上げられている。それは、情報通信技術の発達に伴う情報伝播の急展開により、情報（知識）拠点の分散と集中が動態化してきているとも考えられる。

他方、歴史を俯瞰すれば、九州・長崎はかつて、唯一他国に開かれた交易の拠点として、ヒト、モノ、カネ、そして情報（知識）の集積地（ハブ）であった。そこから数多くの知識が伝播し、全国から志をもつ人材が集まり、知識を習得して全国各地へと巣立っていった。また、西洋文化や中国文化との融合視点でもあり、独自の文化様式を産み出して来た。たとえば、「しっぽく」や「チャンボン」は食の文化融合によって生み出された長崎独自の食文化であり、「カステラ」に代表される糖菓子は富の象徴であった砂糖の交易地であって生洋菓子を独自に創作する風土を醸成した。いわば「情報のハブ」は「文化変容・創造拠点」であったといえよう。

本シンポジウムは、このような情報通信技術のグローバルな急転回期にあつて、われわれの生活社会ならびに産業社会はどのように変化しうるのか、また地域の情報化促進にどのようなインパクトを与え、各地域の文化及び地域間の文化にどんな変容をもたらしてきているのか、とりわけアジア地域を広域的に眺望した場合、東アジアにおける情報化の波をどのように受け止めるべきであろうか。グローバルな視点とともにローカルな思考を踏まえ、自地域における情報化の基盤を確保するとともに、われわれの生活環境（生産・消費環境を含む）にどのようにその技術を活用していくべきか。その問いへの解答を議論しながら、グローカリゼーションの展開と社会情報学の使命・課題を考えてみたい。

モデレーター：香取淳子（長崎県立大学シーボルト校）

報告者：丸川知雄（東京大学）

黄國光（創価大学）

廉宗淳（イーコーポレーションドットジェーピー株式会社社長）

遠藤薫（学習院大学）

Ⅲ-4 若手研究者支援助成の申請方法についてのお知らせ

日本社会情報学会（JSIS）では、若手で報告を行う方を対象として旅費の一部助成を行います。旅費の助成金額は一人5,000円です。助成金の支払いは、学会当日に現金をお返しする形をとります。詳細はつぎの通りです。

■申請資格所有者の条件

- (1)39才以下の常勤ではない若手研究者・大学院生。大学の非常勤講師や企業・研究機関での短期雇用などを含む。複数の所属がある場合は、そのいずれもが本条件を満たしていること
- (2)今年の日本社会情報学会（JASI&JSIS）合同研究大会での一般自由報告、ワークショップなどで第一報告者であること
- (3)科研費およびその他（所属機関を含む）の研究費から旅費の助成を受けていないこと
- (4)日本社会情報学会（JSIS）の正会員または学生会員であること

■申請方法

申請者は以下の必要事項をメールの本文に明記し、メールの件名を「JSIS若手研究者支援助成の申請」として、担当者（下記の服部哲）に送信してください。

- (1) 氏名
- (2) 年齢
- (3) 所属
- (4) 現住所
- (5) 一般自由報告での報告タイトル
- (6) 科研費およびその他（所属機関を含む）の研究費から旅費の助成を受けていませんか？（受けている or 受けていない）

■申請期限

8月20日（金）午後5時

■助成金の受け取り方法

大会会場（長崎県立大学シーボルト校）の大会受付の近くに助成金受け取り専用の受付を用意します。助成金の受け取りの際には、(1)印鑑と(2)身分証明書が必要となります。それらを持参されない場合、助成金をお渡しすることはできません。また、助成金をお渡しする際に、あらためて、科研費およびその他（所属機関を含む）の研究費から旅費の助成を受けていないことを確認させていただきますのでご協力ください。

なお、助成金受け取り専用の受付時間は次のとおりです。

9月4日（土）（大会1日目） 11時30分～15時00分

9月5日（日）（大会2日目） 12時00分～15時00分

これらの時間帯以外にはお支払いできませんので注意してください。

■担当者

神奈川工科大学 情報学部 情報メディア学科
服部哲 e-mail: ahattori@ic.kanagawa-it.ac.jp

Ⅳ 研究委員会から～地区別研究会開催のお知らせ～

【関西地区】（予定）※日時・場所等の詳細は決定次第、学会ホームページならびにメールにてご連絡します。

テーマ1：動画共有サイトの現在とその行方

理由：

先行研究がコンテンツ論と市場への影響・著作権問題のみに留まっていて、動画を媒介とした社会性の発生やコミュニティの生成に関する検討、あるいはその他のメディアとの連関に関する研究がほとんどないため。

テーマ2：インターネット・インターフェイス・空間

理由：

ユビキタス機器・ケータイ・ラップトップといったものですら、それらを使用する身体が占める空間が存在し、その空間は抽象物ではありえないという問題意識から、インターネットを利用する空間についての分析を加えたいと考えたため。

テーマ3：「フィルタリング」再考

理由：

東京都青少年健全育成条例に関する問題に端を発して「フィルタリング」の効用論および技術論、また「フィルタリング」という概念それ自体や社会規範との連関について、検討を加えてみたいと考えたため。

V 事務局から（お願い・ご連絡）

V-1 お願い

■ 総会の委任について

総会の案内と委任状を同封しました。総会をご欠席される方は、ご記入いただいた委任状をお送りください。また、電子メールでも受け付けております。担当：栗川まで (kurikawa@hbg.ac.jp) まで

■ 大会参加費の納入について

大会参加費振込み用紙を同封しました。該当項目に金額を記入し、下記までご入金ください。

※事前受付期限は、8月23日（月）

日本社会情報学会（JSIS）振替口座（ゆうちょ振替口座）

- ・ 口座名 日本社会情報学会全国大会事務局
- ・ 口座番号 00160-2-702417

■ 会費納入について

会費督促と振込用紙を同封しました。ご確認いただき、納入をお願いします。

■ 所属確認について

4月の異動の時期を経たこともあり、所属確認をお願いします。所属確認表を同封しました。ご確認いただき、修正のある場合は、事務局へお送りください。

V-2 ご連絡

■ 事務局の変更

2010年度より、日本社会情報学会事務局が下記に変更となりました。よろしくお願ひいたします。

日本社会情報学会（JSIS）事務局

〒737-4312 広島県呉市郷原学びの丘 1-1-1

広島文化学園大学社会情報学部社会情報学科今田研究室気付

TEL 0823-70-3300 FAX 0823-70-3311

e-mail : s-info@hbg.ac.jp

日本社会情報学会（JSIS）事務局

〒737-4312 広島県呉市郷原学びの丘1-1-1

広島文化学園大学社会情報学部社会情報学科今田研究室気付

TEL 0823-70-3300 FAX 0823-70-3311

e-mail : s-info@hbg.ac.jp

URL : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsis/>

日本社会情報学会 (JSIS) 会費等振替口座 (ゆうちょ振替口座)

- ・口座名 日本社会情報学会
- ・口座番号 00140-2-763005
- ・口座住所 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-38-4 産業プラザB1
NPO法人iコミュニティ内 日本社会情報学会 (JSIS)
会費・和雑誌受領担当 和泉恵子
- ・e-mail : desk@NPOicom.com

■ 入会・退会について (2010年4月1日～7月31日まで)

【入会】

正会員： 小池英勝 (札幌学院大学) 毛利嘉孝 (東京藝術大学) 谷口功 (愛知学泉大学) 花田真澄 (金沢大学) 岩
淵功一 (早稲田大学)

学生会員： 林康弘 (慶應義塾大学大学院) 石川久美子 (兵庫県立大学大学院) 堀口剛 (東京大学大学院) 徳吉陽河
(東北大学大学院) 潘偉春 (群馬大学大学院) 松村みどり (早稲田大学大学院) 佐々木孝侍 (東京大学
大学院) 那須田悠貴 (静岡大学大学院) 寺地幹人 (東京大学大学院) 中塚朋子 (奈良女子大学大学院)
陳玉鈴 (名古屋大学大学院) 古川柳子 (東京大学大学院) 成原慧 (東京大学大学院) 王慧萍 (東京大学
大学院) 車愛順 (京都大学大学院)

【退会】

小田原敏 中正樹

VI 第58回日本社会情報学会 (JSIS) 理事会議事録

と き：7月17日 (土) 13:00～16:30

と ころ：東京大学情報学環 6回会議室

出席者：伊藤、遠藤、安田、大國、岡田、北村、柴田、西垣、橋元、藤井、正村、守弘、吉田、今田、栗川

I 報告事項

1 研究大会に関する進捗について

- ・発表件数は全体で82件、そのうちJSISは37件である旨報告された。
- ・ワークショップの概要および若手支援の概要について報告された。

2 和文雑誌委員会

次の報告があった。

- ・Vol.14 No.2 (原著論文1本、研究10本) を発行した。Vol.15 No.1 (原著論文4本、研究2本) を発行準備中である。
- ・Vol.15 No.1から特集企画を掲載する。当面、特集「隣接研究領域と社会情報学」を続ける。

3 洋雑誌委員会

現在、Vol.3を編集集中である。Vol.3の投稿者が減少したため、掲載確実なものは1本のみである旨報告があった。

4 HP刷新部会

Webサイトの問題点と解決方法について報告があった。さらに、理事全員に対してWeb上の情報の鮮度について監視の協力要請があった。また、委員会ごとに更新依頼フォーマットについて検討中であるとの報告があった。

5 総務委員会

5月に行われた総務員会について報告された。

6 事務局

会費減免申請、会費納入状況、学会誌の発送、図書館への寄贈、宛先不明者、会計中間報告等について報告された。

II 審議事項

1 第57回理事会議事録の承認について

添付の議事録が承認された。

2 会員の入退会について

- ・本日入会申込のあった1名を含め、計15名の入会が承認された。
- ・2名の退会が承認された。

3 各委員会委員の承認について

次号取りまとめ役が後藤嘉宏（筑波大学）先生に変更されたことを含めて、添付の名簿のとおり承認された。

4 JASIとの連携について

JASIとの連携に関する質問票が提案され、質問2と4を一緒にするなど意見がだされた。質問項目を若干修正の上、会員意向調査を実施することが承認された。

23日を回答締切とし、7月20日に電子メールで発送し、その後、回答の督促を行い、7月31日は終了することが付帯決議された。

5 2010年総会について

日程を9月4日（土）12:45～13:30とするが、13:45までの延長も認めることが確認され、総会の骨子について承認された。

6 学会賞選考について

選考対象として、「原著論文」だけでなく「研究」も含めること、また、規定どおり厳格に選考を進めることが確認された。なお、今後、著者の年齢制限については、研究者の実情に合わないので、規約変更について検討を進めることが付帯決議された。

7-1 高校の情報科教育

入試センターに対して、センター入試に教科「情報」を入れてもらう運動や働きかけを行わないことが承認された。本学会としては、長期的な展望に立ち、「関連学会協議会」と協力することが確認された。また、このままでは理系の「情報の科学」が中心となってしまうので、その対策のための勉強会を、西垣先生を中心として行うことが確認された。

7-2 科研費の研究領域の細目について

科学研究費補助金「系・分野・分科・細目表」について、現在の複合領域の情報学の細目「図書館情報学・人文社会情報学」を「図書館情報学・人文情報学」と「社会情報学」に分割するよう、JASI（および京都大学情報学研究所社会情報学専攻）と連携して日本学術振興会に提案したいとの動議がなされ、承認された。なお、「社会情報学」のキーワードについては、今後、学会内でもさらに検討することとした。

8 JSISニュースの発行について

(1) 39号発行のニュースの編集方針について

「大会参加に対する若手の感想」「著者紹介」「学位の授与」など新規の記事を掲載したいとの提案があり、原案どおり承認された。

(2) ニュースと会員名簿の発行方法に関するアンケートの実施について

経費削減の観点から、将来的にニュースは基本的にメールで送付し、会員名簿は原則希望者にのみ有料で発行することが確認された。添付の質問項目の順序変更など一部修正の上、会員意向調査を8月上旬に電子メールによっ

て実施することが承認された。

9 会費未納者の退会願について

2006年入会の当該会員は、入会時から現在まで会費が納入されていないので、「除名」とする提案があった。原案どおり除名とすることで承認された。

同時に次の2点についても付帯決議された。

- ・当該会員の推薦者にも注意を与えること。
- ・入会の承認のルール変更

入会申し込みがあった時点において、理事会では条件付き入会承認を行い、会費が納入されて初めて正式入会承認とする。また、入会者にも条件付き入会承認である旨を通知する。

10 会費未納者に対する対応について

会費未納者には、会費納入・退会意思について調査を行い、5年以上未納者は除名手続きを行うとの提案があり、原案どおり承認された。

11 会費未納者への学会費

3年以上会費未納者には、学会誌送付等のサービスを停止するという提案があり、原案どおり承認された。

なお、会費納入を促進させる観点から、サービス停止時期についてはさらに検討を進める必要があるという意見が出された。

12 エスノグラフィの産業応用に関する国際学会EPIC2010告知について

当該国際学会の会員への告知について承認された。

13 次回理事会の日程について

次のとおり決定された。 9月4日（土） 11:45～12:40

14 合同大会について

(1) プログラムの配布

事前に配布するプログラムは、大会の概要を記載した一枚もののみとし、個別の研究発表については掲載しないことが企画委員会で決定された旨の報告があり、原案どおり承認された。

(2) 合同大会の英語名について

合同大会の英語名を"Annual Joint Conference of JASI & JSIS"とすることが企画委員会で決定された旨の報告があり、原案どおり承認された。

15 名誉会員の推薦について

黒須俊夫前会長を名誉会員として推薦することが承認された。なお、本件は総会でも承認を得る必要がある。

16 若手の学会参加支援について

若手の学会参加者への旅費助成について、1人 5,000円とし、計17人、75,000円を予備費から支出する旨の提案があり、原案どおり承認された。

17 学会誌投稿要領の変更について

編集委員会から投稿要領の一部を変更した旨（審査用の「原稿3部」を「原稿1部」に変更）の報告があり、承認された。